

町政を問う！

ずばり

一般質問とは・・・
年に4回ある定例会において、議員が、町長や教育長に対し、町の施策の状況や方針などについて、報告や説明を求めたり、行政の課題などを直接質問したりすることです。

質問の範囲は、町の行財政全般（公共事務、団体委任事務、行政事務の一切を含む）のほか、地域で住民生活に密接している事項など多岐にわたっています。

定例会でより充実したやりとりを行うため、事前に町長に通告しておくことになっています。また、議員一人あたりの持ち時間は60分としており、その中で3回までの質問と答弁を行います。令和5年第4回新十津川町定例会では、1人の議員が一般質問を行いました。



加藤 敏晃 議員

より多くの世代の学習機会の確保のため、シニア世代向け事業の年齢要件の廃止を！

教育長 引き続きシニア世代に

寄り添った形で事業を継続する。

問

現在、ゆめりあ部会、シニアいきいきクラブ、ふるさと学園大学といった学習活動・仲間づくりの機会は、シニア世代に限定されているため、世代を超えての交流には結びついていなかった。

また、第8期新十津川町社会教育実施計画には「社会の変化に対応した学習活動の提供」として、「町民による主体的な学習活動を推進するため、生涯を通じた学習活動の支援を行う」とある。しかし、具体的な内容としては、一般向けの事業は「英会話教室」しかなく、対象も内容も偏ってしまっている。計画に基づき、もっとより多くの世代に学習機会を提供する必要がある。

① 年齢要件を廃止すべき理由には主に3つ。① 一般の方向けの学習機会を増やすことができる。土曜講座のようにやり方を少し工夫するだけで、一般の方も参加することができるようになる。

② 世代間交流の機会になるため、地域のつながりづくりにもつながること。これによって、行政区や町内会などの地域コミュニティが抱える問題にもアプローチすることができるようになる。人は「単純接触効果」により、たまたま顔を合わせただけでもそれを繰り返すことで、次第に親近感や

仲間意識など好意的な感情が芽生えてくるものである。世代間交流の機会は多ければ多いほど、つながりづくりへの影響は強くなっていく。

③ 「地域の人のつながりは、人生の充実感につながる」とある。「マズローの欲求5段階説」では、仲間ができて、他者から自分の存在を認められることは、「社会的欲求」を満たすことにつながる。社会的欲求が満たされない場合、多くの人が孤独を感じ、「うつ病」などになりやすくなる側面がある。仲間が同世代しかない場合は、社会的欲求が満たされない状況に追い込まれやすくなると考える。

また、アメリカのブリガム・ヤング大学の研究によると、死亡リスクが高まる要因として、「社会的孤立」が1.29倍、「孤独感」によるものが1.26倍という結果が出ている。故に、地域とのつながりによって、孤独を感じさせないことが、健康寿命の引き延ばしにもつながる、と言える。

以上のことから、まずは、シニア世代を対象にした学習活動における年齢要件を廃止し、全町民を対象にした学習活動に変えていくべきだと考えるが、教育長の考えを伺う。

答

シニア世代以外の方がシニア世代を対象としたさまざまな学習テーマや活動内容に興味を持ち、各種事業に参加いただくことはとても良いことである。

しかし、新十津川町第6次総合計画では、地域福祉の推進のための施策の内容として「高齢者福祉の充実」が掲げられており、第8期新十津川町社会教育実施計画の中では、6つの領域の内の1つが「シニア世代の学習活動の支援」となっている。現在はこの計画に基づき事業を展開している中である。

したがって、今後についても、シニア世代の方が健康でいきいきとした暮らしを続けていただくため、シニア世代に興味を持ってもらえる内容や参加しやすい時間の設定などを行う。

さらに、ゆめりあ部会などは、各団体の自主性を尊重した上で、シニア世代以外の参加についても協議しながら、シニア世代に寄り添った形で事業を継続していく。現状、ゆめりあ部会は概ね60才以上としているため、50代でも参加することは可能。

なお、確かに、生涯学習における世代間交流は、人生により豊かな刺激を与えることができるほか、地域全体に活力を生み出すことになるかと踏まえている。世代間の交流を図る事業についても、今後も積極的に実施していく。

問

私の意図は、生涯を通じた学習活動の支援というところに重きを置き、既存の「シニア世代を対象にした学習機会」から門戸を広げれば、より多くの一般の方を対象にした学習活動の支援につながられるのではないかと、いつとこうである。

ゆくゆくは、より多くの世代が興味を持つような内容の学びの機会が必要であると考えており、年齢制限の撤廃はあくまでもスタートラインである。

社会の変化に対応するため、社会人による学び直しなども増えてきている状況である。シニア世代にはかなり固執するのではなく、広く地域住民の方が、必要に応じて学び直せる機会、気軽に学習活動に取り組むためのきっかけとして、また、かぜのびや図書館の大人向け講座など、既存の一般向け事業への参加につながるよう、広く一般を対象にした生涯学習機会の充実が必要だと考える。

例えば、地域を知る学びは、地域への愛着にもつながり、まちづくりの担い手づくりにもつながっていると言われている。

町の基幹産業である農業について、子どもだけではなく、大人も一緒に学ぶことも良い機会となる。議会にいただいた意見で、「お米作りはすぐく注目を浴びているが、畜産はあまり焦点が当てられていない。ぜひ畜産も見に来てほしい」というような声もあったので、住民の方がそれらを見学することも、町を知るいい機会になると考える。

社会教育実施計画に「町民による主体的な学習活動を推進するため、生涯を通じた学習活動の支援を行う」とあるように、生涯を通

答

じた学習活動の支援が本当に必要だと思う。青年層からシニア世代までの間の学習活動の支援について、どのように進める考えているのか伺う。

町について知っていただくための学びの機会については、教育委員会が実施するか、関係する団体がするかは別として、参考にさせていただきます。

町民の皆さんがどのようなものに興味があるのかも踏まえながら、教育委員会として必要だと思うことは直接行う場合もあるし、スポーツクラブやこび子どもゆめクラブなど、いろいろな団体の方で行うことも考えられる。ニーズを的確に捉えて町民の生涯学習の推進に努めていく。



〈一般向け英会話教室〉